東日本大震災から3年 ーこれまでの活動を振り返ってー

震災発生２日後にスタッフを被災地へ派遣して以来、主に宮城県南三陸町、気仙沼市、岩手県宮古市で緊急復興支援を実施。約30万人を対象に支援を届けました。支援開始から３年目を迎えた今年は、被災地で活動するNPOの育成支援と子ども支援、奨学金支給による支援を継続してきました。

WVJが提供した和船（2011年、宮城県気仙沼市）

学校に設置されたソーラーパネルの発電量を示すパネル（2012年、岩手県宮古市）

チャイルド・フレンドリー・スペースで過ごす子どもたち（2012年、宮城県登米市）

国連本部でスピーチする三浦さん（2013年、ニューヨーク）

2013年３月６日には、子ども支援の一環としてともに活動した南三陸町出身の三浦ほのかさん（当時18歳）が、ニューヨーク国連本部でWVJと行った“「子どもに笑顔を！地域に夢を！」南三陸町まちづくりプロジェクト”の経験について、「大人だけでは見えない私たち（子どもたち）の目線があります。時間はかかるかも知れません。でも、たくさんの発見があるはずです」と10分間のスピーチを行いました。

また、10月には東京・神奈川に住む中高生21人が南三陸町を訪問し、復興に取り組む地元中学生と交流して学びの場とするイベントを開催。被害を受けた地域を見学し、地元の語り部の方や高校生から震災発生時の様子を聞き、これらの学びを今後にどう生かすかというアクションプランを作成しました。「南三陸の現状を家族や友だちに伝える」「東京での生活が当たり前でないことに気付いた。これからは一日一日を大切に生きたい」という声が聞かれました。なお、WVJの東日本大震災支援は、延長することになった被災県のNPO育成支援事業を残し、2014年３月末をもって終了します。皆さまから寄せられた多くのご支援とご協力に心から感謝申し上げます。

アクションプランを発表する参加者（2013年、宮城県南三陸町）